

# 桜井市議会議員 やすおき つちや 靖起

士 家



活動報告  
第60号

連絡先 633-0064 桜井市戒重57 電話0744-43-9288 FAX0744-43-9295  
メール tuchiya@seikatubunka.jp

## 水道事業

# 人口減少などで大幅減益 市に県域一体化の進捗問う

桜井市議会の土家靖起は、市議会9月定例会の一般質問に登壇し、人口減少などで大幅に減益となった桜井市水道事業について取り上げ、水道事業の県域一体化について市の考えをたどりました。市町村の枠組みを超えた一体化について松井正剛市長は「令和8年度の統合を目指す」と答弁、また市の水道事業の厳しい経営状況については、令和元年度の決算状況を考慮し、同3年度に料金の値上げを予定していると市民への理解を求めました。

### 土家

水道事業の県域一体化について聞きたい。昭和40年代を中心に整備されてきた水道施設の老朽化が進み、今後施設の更新時期を迎え、多大な施設の更新費用が発生することが予想されている。

そのような中で奈良県は「奈良モデル」として取り組んできた広域連携を水道事業においても推進し、上水道エリアおよび簡易水道エリア各地域の自然的、社会的諸条件に応じてその区域内における市町村区域を超えた広域的な水道事業者の連携について、推進、調整役となって進めていこうとしている。

県内では、更新時期が到来する市町村の浄水場の更新費用と、県営水道の受水費用を比較検討し、県営水道を選択した方が事業の効率化を図れる場合には、市町村の浄水場を廃止し、県営水道からの100%受水へ転換が進められている。磯城郡3町の川西、三宅、田原本

### 市長

全国の自治体ではライフラインの水道事業が将来にわたって安全・安心で安定的に経営していくことが難しい状況が予測されている。桜井市においても例外ではなく、全国共通した問題を抱えている。

これらの問題は各市町村が単独で対応することには限界があるため、県内水道事業者を広域的に統合し、事業運営を行うことを目的として奈良県が平成29年10月に県域水道一体化構想を提案した。

現在までの進捗としては、平成30年度に一体化検討会を設置し、下部組織として施設管理部と総務財政部会により課題の洗い出しや一体化先進事例を調査、骨子案の検討を行ってきた。本年度からは各作業部会に分かれ、基本的な計画の立案、浄水場の統合シミュレーション、各市町村の財政シミュレーションを行っている。

今後も作業部会で作業を進めながら、令和2年度後半に基本的条件を明記した覚書を締結、各市町村の職員で構成される準備室を設置、企業

団の設立を経て、令和8年度に統合を行うスケジュールになっている。

### 土家

今回の議案に提出されている平成30年度の水道事業の決算ならびに監査の意見書を見ると、水道料金については前年度と比較して大幅な減収になっている。また収益的収支についても純利益が3600万円あまりと、純利益

が大幅に減少している。これらの決算データから水道事業経営が非常に厳しくなっていると感じられる。この主な原因について担当部長から聞きたい。

### 上下水道部長

平成29年度決算では、1億9700万円の純利益を計上したが、平成30年度では1億6000万円の大幅な減となり、3660万円の純利益となっている。

この主な要因としては近年の人口減少と節水意識の向上による使用水量の減少、大口使用者の使用水量の減少による。29年度と比較すると給水収益が1500万円の減収、また外山浄水場原水の問題により、県営水道の受水量が増加し、1億2600万円の受水費の増となり、利益が減少した。



(2面へ続く)

# 市「県内の水道事業一体化、持続的な経営に必要」

(1面から続く)

ついでなのか、市長に聞きたい。

## 土家

今後の桜井の水道事業は人口減少に伴って水道使用料の減少、あるいは県営水道の受水量の増加など、水道事業の経営環境は一段と厳しさが増すものと推察できる。

今後、水道料金の値上げは考えているか。

## 上下水道部長

料金については、今年度のアクションプランにもあるように、令和元年度の決算状況、また県営水道単価の改定を確認後、令和3年度での料金改定をする予定がある。

## 土家

現在市の水道事業は外山浄水場での自己水と県営水道、桜井浄水場からの購入で賄われているが、自己水の単価と県営水道の単価、また将来を見据え、厳しい経営環境の中で一体化になるまでどのような水道事業の経営を行

## 市長

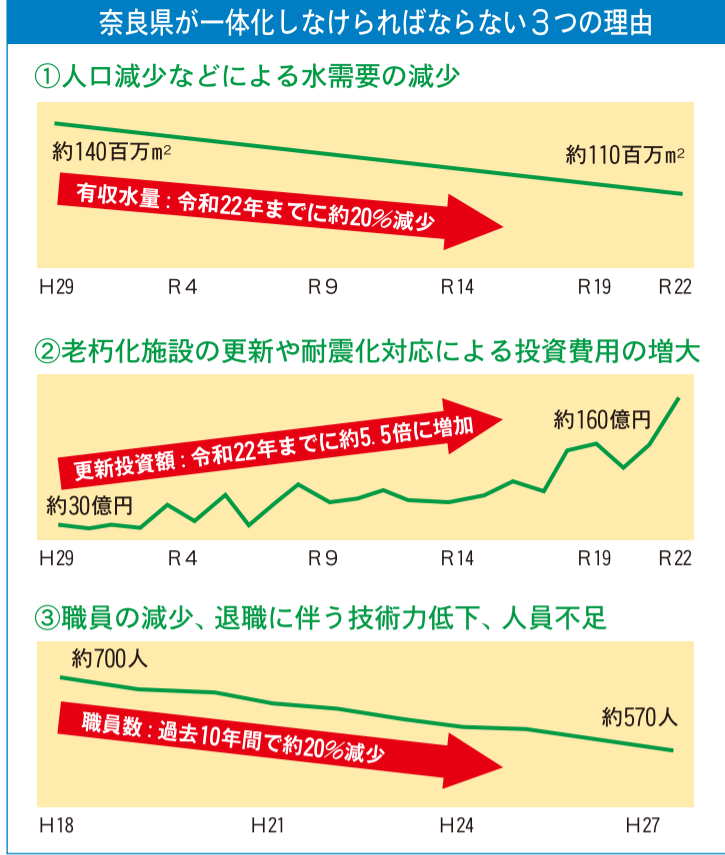
外山浄水場の製造単価は1立方メートルあたり80円後半。一方県営水道の単価は199万4000立方メートルまでは単価130円、それ以上は90円となっている。現時点では自己水での供給が有利であると考えているが、今後の外山浄水場にかかる更新費用、また県営水道の受水単価と、県営水道の単価を見極めながら、的確な経営判断を行っていききたい。

## 土家

市民の皆さんにとつての命の水。安心、安全で持続的、安定的な供給が求められている。できるだけ水道料金は大幅な市民負担が生じないように、公営企業として経営努力も必要。将来を見据え、県営水道の一体化が必要との市の判断について市長の考えは。

## 市長

本市が単独で全ての問題に対応していくこ



とは限界があり、県内の水道事業体を一体化し、経営基盤の強化と、施設の共同化を図ること、施設の統

廃合を行い、スケールメリットを生み出すことにより、コスト削減が図れるとともに、職員の技術継承にも資することができると思われる。一体化を図ることが将来の水道事業の持続的な経営に必要と考えている。

## 整備計画改良を要望

線坂忍部阿道市  
号661国道

道路や橋りょう補修、長寿命化 市民の安全性確保へ

水道事業の質問に加えて市議会9月定例会では、道路予算の確保や長寿命化について一般質問を行いました。高度経済成長期の1970年代に建設・整備された道路や橋りょうは、更新時期の目安となる50年を迎えようとしており、市民の安全性を確保するため効果的な補修、長寿命化を求めました。また慢性的な渋滞が生じている市道阿部忍坂線、国道166号の整備計画についてただし、改良を要望しました。

## 土家

老朽化が進む橋りょうについてはこれまで長寿命化の観点での日常点検や維持管理を実施しておらず、損傷が顕著になった後に大規模な補修・補強工事を行う「事後保全型」の維持管理になっていたと聞いている。

整備補助金を受け、橋りょうの点検、長寿命化修繕計画を策定した。今後この補助金を活用し道路予算の確保に努めていきたい。

市長 市内には市道延長475m、橋りょう数は415橋ある。指摘の通り老朽化している道路、橋りょうが数多くあるのが現状。平成21年度から国の社会資本総合



### 将来見据えた水道事業 安全で持続的な供給を



市民の皆さまにおかれましては、土家靖起の議会活動に対し、格別のご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

市議会9月定例会で土家は、人口減少などで大幅に減益となった桜井市の水道事業について取り上げさせていただきました。さらに昭和40年代を中心に整備されてきた水道施設は老朽化が進み施設の更新時期を迎え多大な施設の更新費用の発生が予想されている現状をうけ、水道事業の県域一体化について市の考えをいただきました。

令和3年度に水道料金の値上げも予定されている中、市民の皆さまにとっての命の水が大幅な市民負担が生じないように安心、安全で持続的、安定的な供給されることが求められます。

(土家靖起後援会会長・勾田義浩)

## 土家

市道の管理瑕疵(かし)による事故の損害賠償が今議会でも報告されている。多額の予算付けは難しいと考えるが、維持補修についても点検の強化と計画的な予算化をお願いしたい。

市道阿部忍坂線では、国道166号に至る交差点の渋滞が続いている。市はこれまでに「地元の協力が得られれば」と道路改良についての回答もしている。この箇所の改修についてはどう考えているか。

## 都市建設部長

地元の協力が得られれば、現道路の改良は可能だと思っている。

## 土家

今部長が改良の必要性を答弁されたが、あらためて市長に考えをお聞きしたい。

## 市長

しっかりと取り組んでまいりたいと考えている。

ごあいさつなどは議員活動を優先させて頂きますため、略させて頂きませんが、市民の皆様にはご了承の程、よろしくお願い申し上げます。



## つちや靖起

現職  
桜井市議会議員  
桜井市ソフトボール協会顧問  
戒重区顧問  
桜井西地区社会福祉協議会会長  
NPO法人ひかりの森理事  
奈良県市町村職員年金者連盟桜井支部長

主な経歴  
桜井市市長公室長  
平成15年桜井市議選初当選  
平成19年桜井市議選2選  
平成23年桜井市議選3選  
平成24年桜井市議選議長  
平成27年桜井市議選4選  
平成31年桜井市議選5選

市政に対する要望・ご意見・ご提言をお寄せ下さい。

メール tuchiya@seikatubunka.jp

633-0064 桜井市戒重57 電話0744-43-9288